公認不正検査士協会 (ACFE)

公認不正検査士(CFE)

職務分析調查 2024

調査について

この調査は、約 30 ~ 50 分 で完了します。ほとんどの質問は、数秒で回答できます。各ページの下部には、完了した調査の割合を示す進行状況バーが表示されます。調査は次のセクションで構成されています:

セクション 1: 背景と一般情報

セクション 2: 知識、スキル、能力

セクション 3: 主題領域の重み付け

セクション 4: 追加コメント

セクション 5: 継続的専門教育クレジットとコンテスト

「次へ」ボタンを選択するたびに、回答が記録され、次の項目に自動的に移動します。 アンケート全体が完了したら、最後のページの「送信」ボタンを選択してください。

未完了のアンケートを終了して後で続行する方法

アンケート全体を 1 回で完了できない場合は、Web ブラウザを閉じるだけでアンケートを終了できます。アンケートに再度アクセスするには、元のアンケート URL (リンク) を使用してください。次のページに移動すると、回答が自動的に記録されます。アンケートを終了する前に、現在のページのすべての質問に回答し、[次へ] ボタンを選択してください。

技術支援

オンラインでのアンケート回答で技術的な問題が発生した場合、またはアンケートの内容に関してご質問がある場合は、 <u>nick.baker@prometric.com</u>までお問い合わせください。必ず、ご回答いただくアンケート(ACFE CFE Job Analysis Survey 2024)を明記してください。月曜日から金曜日まで、24 時間以内に回答をお送りします。

セクション 1: 背景と一般情報

このセクションで提供された情報は完全に機密情報であり、調査目的にのみ使用されます。あなた自身またはあなたの職業活動を最もよく表す回答を選択するか、適切な回答を入力して、次の質問に回答してください。

1. 現在、ACFE 会員ですか?
○ (\$ſ\)
○ いいえ
2. 詐欺防止業界に携わってどれくらいになりますか?
3年未満
○ 3~5歳
○ 6~10歳
○ 11~20歳
○ 20年以上
○ 該当なし
3. 現在、公認不正検査士 (CFE) ですか?
○ (‡t)
○ いいえ
4. CFE になってどれくらい経ちますか?
3年未満
○ 3~5歳
○ 6~10歳
○ 11~20歳
○ 20年以上
○ 該当なし、

5. 他にどのような詐欺関連の認定資格やラ ってください。)	イセンスをお持ちですか? (該当するものをすべて選択し
認定マネーロンダリング対策スペシャリスト (CAI	MS)
公認情報システム監査人 (CISA)	
認定情報システムセキュリティ専門家 (CISSP)	
公認内部監査人(CIA)	
認定保護専門家 (CPP)	
□ 公認会計士(CPA)	
□ 公認会計士 (CA)	
L 私立探偵(PI)	
□ その他(詳しくご記入ください)	
□ 該当なし	
0% •	100%

6. 現在あなたが働いている業界に最も近いのは次のどれですか? ○ 芸術、エンターテイメント、レクリエーション ○ コミュニケーションと出版 ○ 工事 ○ 教育 ○ エネルギー ○ 金融サービス(例:銀行) ○ 食品サービスとホスピタリティ ○ 政府および行政(例:法執行機関、USDA) (健康管理 (保険 ○ 物流 (例:輸送、倉庫) 製造業 ○ 鉱業 ○ 不動産 宗教、慈善、社会奉仕 ○ 小売 / 損失防止 ○ 専門サービス (例:会計、コンサルタント、法律) ○ テクノロジー ○ 通信 ○ ユーティリティ 卸売業(例:販売業者、サプライヤー) ○ その他 (詳しくご記入ください)

7. 現在の主な役割に最も近いのは次のどれですか? 会計士(例:簿記係)) 弁護士 監査人 (外部) 監査人(政府) 監査人(社内) 銀行検査官 ○ コンプライアンスと倫理 ○ コンサルタント ○ コントローラ 企業セキュリティと損失防止 ○ データアナリスト/データサイエンティスト ○ 教育者 金融専門家(例:銀行家、ブローカー、ファイナンシャルプランナー) ○ 法廷会計士 不正検査官/調査員 ○ IT/コンピュータフォレンジックスペシャリスト ○ 法執行機関 リーダーシップ/マネジメント ○ 私立探偵 ○ 研究者 リスク管理専門家 ○ 税務専門家 ○ その他 (詳しくご記入ください)

8. 組織全体で何人ぐらいの人がいますか?	
(自分だけ)	
〇 2-10人	
○ 11-50人	
○ 51 - 100人	
○ 101 - 500人	
○ 500人以上	
○ 未知	
9. あなたの最高学歴を最もよく表すのは次のどれで	すか?
高等学校卒業証書、中等学校卒業証書、または同等の資格	
準学士号または同等の資格	
学士号または同等の学位	
修士号または同等の学位	
博士号、Ph.D.、または同等の資格	
~ その他 (詳しくご記入ください)	
10. 主にどの国で活動していますか?	
	~
0% 	100%

任意の経歴に関する質問

以下の人口統計に関する質問は、ACFE があらゆるバックグラウンドを持つ不正防止専門家の傾向と ニーズをより深く理解できるようにするために含まれています。これらの質問への回答は任意であ り、完全に機密性が保たれ、いかなる形でも回答者を追跡することはできません。

11. あなたの年齢は何歳ですか?

0 :	29歳以下
0 :	30 - 39
0	40 - 49
0 :	50 - 59
0	60 - 69
0	70歳以上
0 1	答えたくありません
12. あ	なたの性自認は何ですか?
O \$	女性
O 5	男
0.	ノンバイナリー
O 4	その他、または自己説明を希望(具体的に記入してください)
○ 2	答えたくありません

13. あなたの人種/民族は何ですか?
○ アジア人またはアジア系アメリカ人
○ 黒人、アフリカ人、またはアフリカ系アメリカ人
○ ヒスパニック、ラテン系、ラティーナ、またはラテン系
中東または北アフリカ
─ 先住民族(ネイティブアメリカン、ファーストネーション、アラスカ先住民を含む)
○ 太平洋諸島人
○ 自
○ 多民族または多人種
○ その他、または自己説明を希望(具体的に記入してください)
○ 答えたくありません
- 100% →

セクション 2: 知識、スキル、能力 (KSA)

調査のこの部分には、4 つのセクション、つまりコンテンツ領域があります。各セクションには、知識、スキル、能力 (KSA) ステートメントを含む複数のドメインがあります。調査のこの部分の目的は、CFE 認定におけるこれらの KSA ステートメントの重要性を評価することです。

セクション:

- 1. 金融取引と詐欺行為
- 2. 法律
- 3. 調査
- 4. 詐欺の防止と抑止

セクション 1・全軸取引と詐欺のフキール

2. 損益計算書 (損益計算書、営業報告書) の構成要素とそれらの相互関係

- 5. 会計フレームワーク(GAAP、IFRSなど)とその使用時期を認識する

(現金、収益、粗利益、純利益の差など)を特定する - 3. キャッシュフロー計算書の構成要素を特定する

- 4. 現金主義と発生主義会計を区別する

使用する評価スケールは次のとおりです。

不正行為防止の専門家が適切に どの程度重要ですか?	業務を遂行するためには、	それぞれの知識、	スキル、	能力 (KSA) は
0 = 重要ではない				
1 = あまり重要ではない				
2 = 中程度の重要性				
3 = 重要				
4 = 非常に重要				
	0%	100%		

		-1	要度(1)		
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 貸借対照表(財務諸表)の構成要素とそれらの相互関係(資産、負債な ど)を特定する	0	0	0	0	0

セクション 1: 。金融取引と詐欺スキーム。

ドメイン 2: 。財務諸表詐欺。

	-重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 財務諸表詐欺の種類について説明する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ a. バランスシート操作	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 収益操作	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. 経費操作	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 不適切な開示制度	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 2. 財務諸表分析に使用される手法(例:水平/垂直分析、比率分析)を特 定する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画。

ドメイン 3: 資産の不正流用: 資産の盗難/不正使用。

	重要度 ①					
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要	
~ 1. スキミングの種類を説明する	0	0	\circ	0	\circ	
~ 2. スキミング防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 3. スキミング対策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 4. 現金が絡む窃盗/資産横領事件の種類を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 5. 現金を絡めた窃盗・資産横領の防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 6. 現金を絡めた窃盗・資産横領事件の検出方法を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 7. 在庫窃盗の種類について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 8. 在庫盗難防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 9. 在庫盗難計画の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画 ドメイン 4: 資産の不正流用: 不正支出。

	■重要度の				
		_			
	0 = 重 要では ない	り重要で	程度の	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. レジ支払いスキームの種類について説明する	0	0	\bigcirc	0	\bigcirc
- 2.レジ払い詐欺防止対策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. レジ支払い詐欺の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 4. 電子決済改ざんの手口の種類について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 電子決済改ざん防止対策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 6. 電子決済改ざん検知対策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 7. 課金体系の種類について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 8. 不正請求防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 9. 不正請求の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~10. 給与不正詐欺の種類を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 11. 給与不正防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 12. 給与不正詐欺の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 13. 経費スキームの種類を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 14. 経費詐欺防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 15. 経費スキーム検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺計画。

ドメイン 5: ~汚職~

	∞重要度 (⊓)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. 汚職スキームの種類を説明する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 賄賂(例:贈り物、キックバック)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 利益相反	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ C. 共謀	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 経済的強要	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 2. 違法な支払い方法を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 汚職防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 汚職計画の検出対策を認識する		\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画。

ドメイン 6: 知的財産および非金融財産の盗難。

	重要度(1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 知的財産(IP)の盗難(例:データ、商業/貿易/研究の秘密)について 説明する	0	0	\circ	0	\circ
~ 2. 企業スパイと競争情報の違いを理解する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 情報窃取の手法について説明する(例:内部脅威、サイバー攻撃、ソーシャルエンジニアリング)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~4 . IP窃盗計画防止対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. IP盗難スキーム検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画。

ドメイン 7: 個人情報の盗難。

	■要度 ⑺				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 個人情報窃盗の種類を説明する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ 2. 個人情報窃盗の手法(例:人工知能(AI)駆動ツール、フィッシング、 ソーシャルエンジニアリング)について説明する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 組織や個人に対する個人情報窃盗計画	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 4. 個人情報窃盗防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 個人情報盗難スキーム検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画 ドメイン 8: 金融機関の詐欺

	~重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 金融機関の詐欺行為の種類を説明する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ a. ローンおよび住宅ローン詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 新しい口座制度	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. 顧客アカウントからの盗難 (例:アカウント乗っ取り)	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
金融機関の詐欺行為防止対策の	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 金融機関の詐欺行為検知対策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺のスキーム。

ドメイン 9: ~支払い詐欺~

		~1	要度 ①		
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 支払詐欺の種類を説明する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\circ
~ a. カードスキミングとシミング	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 小切手詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. 偽造力一ド	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 電子資金移動 詐欺	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. モバイル決済スキーム	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ f. 決済カード詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ g. プリペイドカード制度	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ h. アカウント乗っ取り計画	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 2. 支払詐欺防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 支払詐欺スキーム検出対策を認識する		\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\circ

セクション 1: - 金融取引と詐欺の計画 - ドメイン 10: - 保険詐欺 -					
		~ 重	要度(「)		
	0 = 重 1 = あま 2 = 中 3 要では り重要で 程度の 量 ない はない 重要性 男				4 = 非 常に 重要
~ 1. 保険金詐欺の種類を説明する	0	\circ	\bigcirc	\circ	\circ
~ a. エージェント/ブローカー詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 資産ベースの保険制度	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. 給付金詐欺 (生命保険、 労災保険など)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 保険料と保険金詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. 財産および損害保険	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 2. 保険金詐欺防止策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 保険金詐欺の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画

ドメイン 11: ~医療詐欺~

	△重要度 ⑴				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 医療詐欺の種類を説明する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 保険 会社/グループによる詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 患者による詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. サービス提供者による詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 2. 医療詐欺防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 医療詐欺の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画 ドメイン 12: 消費者詐欺と詐欺行為

		~ 重	要度 (1)		
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. 消費者詐欺と詐欺行為の種類を説明する	0	\circ	\circ	\circ	\circ
~ a. 前払い金詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 消費者詐欺 (例:なりすまし、豚の屠殺、 ロマンス)	0	0	\circ	\circ	\circ
~ c. 暗号/仮想ベースのスキーム	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 高齢者詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. ポンジスキーム	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ f. ねずみ講	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 2. 消費者詐欺防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 消費者詐欺の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画。

ドメイン 13: ~サイバー詐欺~

	-重要度 ⑺					
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要	
~ 1. ソーシャル エンジニアリング スキームの種類について説明します (例: ビジネス メール詐欺、ディープフェイク、ファーミング、フィッシング)	0	0	0	0	0	
~ 2. マルウェアの種類を特定する(例:ボットネット、インフォスティーラー、ランサムウェア、ウイルス、ワーム)	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 3. サイバー詐欺防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 4. サイバー詐欺の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	

セクション 1: 金融取引と詐欺スキーム。 ドメイン 14: 調達詐欺 重要度 🗇 0=重 1=あま 2=中 3= 4=非 程度の 重 重要性 要 要では り重要で 程度の 常に 重要 ない はない \bigcirc 0 0 ~ 1. 調達プロセスの基本要素と段階を認識する ~2. 入札前の調達詐欺の種類について説明する \bigcirc ~ a. 入札操作スキーム ~ b. 入札調整スキーム ~ c. 請負業者間の共謀 ~ d. 従業員との共謀 \bigcirc ~ e. ニーズ認識制度 ~3. 受注後の調達詐欺の種類について説明する ~ 4. 契約締結前および契約締結後の調達詐欺防止策を認識する

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画

~ c. 不適合な商品またはサービス

~ 5. 調達詐欺の検出対策を認識する

~ a. 変更注文/修正の濫用

~ b. 費用の誤請求

ドメイン 15: 政府/公共部門が資金提供する詐欺

	重要度 ⊕				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. 政府/公共部門が資金提供する詐欺スキームの種類(助成金、災害融資など)について説明する	0	0	0	\circ	\circ
~ 2. 政府・公的機関による詐欺防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~3. 政府/公共部門が資金提供する詐欺計画の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

 \bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺行為 ドメイン 16: マネーロンダリング

		重要度(1)			
	0=重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. マネーロンダリングの定義	0	0	0	0	0
~ 2. マネーロンダリングの段階を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\circ	\bigcirc
~ 3. マネーロンダリングの仕組みについて説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- a. 国境を越えた通貨の移動 (マネーミュールなど)	0	\circ	\circ	\circ	\bigcirc
~ b. 暗号資産/仮想資産のロンダリング	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. ギフトカード	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 報告された収益の過大評価	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. 構造化/スマーフィング	0	\bigcirc	\bigcirc	\circ	\bigcirc
~ f. 貿易に基づくマネーロンダリング	0	\bigcirc	\bigcirc	\circ	\bigcirc
- 4. マネーロンダリングの手段(カジノ、コインランドリー、不動産など) について説明する	0	\circ	\circ	\circ	\bigcirc
- 5. マネーロンダリング防止策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\circ	\bigcirc
- 6. マネーロンダリング対策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 7. マネーロンダリング防止プログラムの構成要素を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 代替送金システム	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 実質的所有者の報告	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- c. 顧客デューデリジェンス / 顕客確認 / オンボーディング	0	\circ	0	0	\circ
~d. 顧客との多額の現金取引の報告	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. 疑わしい取引報告 (STR) /疑わしい活動報告 (SAR)	0	0	0	0	0
~ 8. 適切な枠組みと規制を認識する(例:金融活動作業部会(FATF)の勧 告)	0	\circ	\circ	\circ	\circ

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画。 ドメイン 17: 脱税。					
		~重	要度		
	0 = 重要ではない	1 = あまり重要ではない	2 = 中程度の重要性	3 = 重 要	4 = 非常に重要
- 1. 租税回避と脱税を区別する	0	0	0	0	0
- 2. 脱税スキームの種類について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 消費稅制度	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 所得申告の不履行	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. 虚偽の税額控除	0	\bigcirc	\circ	\bigcirc	\bigcirc
- d. 盗まれた納税者の身元	0	\bigcirc	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ e. タックスヘイブン/租税回避地	0	\circ	0	0	\bigcirc
- 3. 脱税防止策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 脱税スキーム検出対策を認識する	0	\bigcirc	0	0	\bigcirc

セクション 1: 金融取引と詐欺の計画。

ドメイン 18: 『証券詐欺》

	-重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. 証券法規制を規制・執行する機関および関連する自主規制機関の種類と 役割を認識する	0	0	0	0	0
- 2. 証券とその構成要素を定義する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 証券詐欺の種類について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 環境・社会・ガバナンス(ESG)詐欺	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. インサイダー取引	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. 虚偽表示および省略	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 不適切な推奨	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. 未登録のブローカーディーラー	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 証券詐欺防止策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 証券詐欺スキーム検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

	■重要度(1)							
	要では	1 = あま り重要で はない	程度の	重	常に			
- 1. 破産管財人制度と破産の種類(清算、再編など)を認識する	0	0	0	0	0			
- 2. 破産における主要関係者(例:管財人、裁判所、清算人、破産管財人) の役割を認識する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ			
- 3. 破産詐欺の種類(資産隠蔽、不正譲渡、計画的破産など)を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc			
- 4. 破産詐欺防止策の認識	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc			
- 5. 破産詐欺の検出対策を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc			
0 = 非常に悪い1 = 悪い								
2=+分								
3=まあ								
3 = まあ4 = 非常に良い								
	れていな	いものは	あります	「か?				

第2章:~法律~

第1章: 法制度の概要

	- 重要度 □				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 管轄区域の境界を特定する(例:国、地域)	0	0	0	0	0
~ 2. 民事/審問手続きとコモンロー/対立手続きを区別する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 詐欺に対する刑事、民事、行政の措置を区別する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 行政罰を認識する(例:プログラム詐欺民事救済法、資格停止処分)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 5. 国際訴訟における課題を認識する(例:企業対個人、執行問題、証拠収 集、法的基準)	0	\circ	\circ	\circ	\circ

第2章:~法律~

ドメイン2: 詐欺に関する法律。

	重要度 (1)					
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要	
~ 1. 海外腐敗行為防止法の要素を認識する	0	0	0	0	0	
~ 2. 英国賄賂禁止法の要素を理解する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~3. 重要な事実の虚偽表示や偽造の要素を認識する(例:詐欺的な隠蔽、妨害)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	
- 4. 信頼違反(注意義務/忠実義務)の要素を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 5. 郵便詐欺と電信詐欺の要素を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 6. 偽証の要素を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 7. 陰謀の要素を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 8. 犯罪組織の要素を認識する (例: RICO)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 9. 従業員の権利侵害に対する訴訟理由を説明する(例: プライバシーの侵害、精神的苦痛の意図的な加害、名誉毀損、不法拘留)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	

セクション 2: ※法律。

ドメイン 3:調査/調査中の従業員の権利。

	~重要度 ①				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	程度の	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. 不正行為の調査・捜査における従業員の権利を認識する	0	0	0	0	0
- a. 協力する義務	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- b. 契約上の権利	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- c. ブライバシーの期待(例:データの ブライバシー、職場における従業員のブライバシー)	0	0	\circ	0	0
- d. 職場における捜索と監視に関する規則	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
e. 内部告発者の法的保護	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 2. 従業員の権利の侵害の可能性について説明します(名誉毀損、精神的苦痛、プライバシーの侵害、不法拘留など)。	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ

セクション 2: 法律 ドメイン 4: 刑事訴追

	重要度(7)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない		3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 刑事訴追における立証責任の基準を説明する	0	0	\circ	\circ	\circ
~ 2. 企業の刑事責任について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 刑事訴追における証拠保全について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 4. 犯罪証拠開示プロセスについて説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 起訴手続きの段階を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- a. 起訴状(情報告発状など)の発行	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- b. 最初の出廷 (例:起訴状、陳述)	0	\circ	\circ	\circ	\bigcirc
~ c. 公判前交涉	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
-d. 事実認定者による裁判/審問	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. 判断	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- f. 判決	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ g. 控訴	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. 起訴手続きにおける役割と責任について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 7. 企業間の起訴猶予協定について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

第2章 :	法律。
第5章 :	民事訴訟

	-重要度 ⑺				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	程度の	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 民事訴訟における立証責任の基準(すなわち、蓋然性の均衡、証拠の優越)を認識する	0	0	0	0	0
~ 2. 民事訴訟における証拠保全(法的/訴訟保留)について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 民事証拠開示手続きを認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 訴訟手続きを理解する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- a. 苦情を申し立てる	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 証拠開示 (証言録取など) に従事する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
-c. 事実認定者による裁判/審問	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 判断	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. 救済策	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ f. 控訴	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 訴訟プロセスにおける役割と責任を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. 訴訟手続きの代替手段を認識する(例:調停、和解、仲裁)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 2: ~法律~

ドメイン 6: 一行政手続き/審判所

	~ 重要度 (T)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. 行政上の解決策が適用される場合を認識する	0	0	0	0	\circ
- 2. 職業、産業、組織に適用される規制とライセンスの管轄権を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 内部調査および懲戒手続きと規制を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

第2章	:	法律

第7章: 証拠の基本原則。

	∞重要度(↑				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない		3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. 直接証拠と状況証拠を区別する	0	0	0	0	0
- 2. 証拠の許容性を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 認証	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- b. 保管の連鎖	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- c. 関連性	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 証人の信頼性に影響を与える弾劾証拠を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 証拠特権と基準を認識する(管轄によって異なる場合があります)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- a. 弁護士・依頼者間の秘匿特権	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- b. 弁護士の作業成果物秘匿特権	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- c. 訴訟特権(すなわち、 裁判で使用するために特別に作成された文書)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ
- d. 特権の放棄(すなわち、 特権の保有者)	0	\circ	\circ	\circ	\circ

セクション 2: -法律-ドメイン 8: -証言-

	∞重要度 ⑴				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 証人としての義務を認識する	0	0	0	0	\circ
~ 2. 証人の種類(専門家、事実、主題など)を区別する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 専門家証人として証言するための資格を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 4. 直接証言の考慮事項を特定する(例:誘導的な質問はしない)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 反対尋問の考慮事項とテクニック (誘導尋問など) を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

לי?	
0 = 非常に悪い	
○ 1 = 悪い	
○ 2 = +分	
○ 3 = まあ	
4 = 非常に良い	
重要な知識、スキル、能力に関する記述のうち、カバーされていないものはありますか?	
<i>(</i> 2)	
0%	

セクション II の知識、スキル、能力に関する記述は、法律の重要な側面をどの程度網羅しています

セクション 3: ~調査~

ドメイン 1: 不正検査/調査の計画と実施。

	△重要度 ⑺				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 不正検査/調査の要素を定義する	0	0	\circ	0	\circ
~ 2. 不正検査/調査を計画する際の考慮事項を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 訴訟/法的考慮事項を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 4. 不正調査・不正行為の調査における前提の基礎を理解する	0	\bigcirc	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 不正調査計画を策定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. 不正調査における機密保持の重要性を認識する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション	3: ∞調査∞
ドメイング	証拠の収集

	-重要度 ①				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. 証拠の種類を特定する(例:文書、デジタル、証言)	0	0	0	0	0
- 2. 証拠収集のルールを説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 証拠の入手と保管の方法を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 証拠の処分方法を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

ドメイン 3: ~インタビュー理論と応用~

	∞重要度 (⊤)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. インタビューの目的を明確にする	0	0	0	0	0
~ 2. インタビューの計画プロセスを説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. インタビュー対象者の法的権利および行政上の権利を認識する(例:許容される第三者の存在、休憩、自己負罪の申し立て)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~4. 文化的規範や慣習に対する配慮を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. インタビューを記録するためのベストプラクティスを説明します(例: 音声、電子、ビデオ、書面)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~6. 面接プロセスの方法論を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- a. 紹介と 信頼関係の構築	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 質問のテクニック(例:計画と準備、関与と説明、説明、結論、評価 (PEACE) モデル、一連の質問)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
- c. 情報提供型の質問の種類 (例:クローズド、誘導、オープン)	0	\circ	\circ	\circ	\circ
~ d. 文書・証拠の提出	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
e. インタビュー対象者の行動 と手がかりを評価する(例:反応を観察する、 ベースラインを確立する、 一緒に行動を検討する)	0	0	0	0	0
- f. 抵抗や、困難で 敵対的で不安定な人々への対処	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ

ドメイン 4: ~入学志望者面接~

		∞重要度 ⑴			
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~1. 入学面接の目的を明確にする	0	0	0	0	0
- 2. 入学志願面接の計画プロセスについて説明する(例:宿泊施設、観察者、通訳の参加、録音方法、座席の配置)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 入学面接の手順を説明します	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- a. 入学希望/行動 観察に関する質問をする	0	\circ	\circ	\circ	\circ
~ b. 直接的な告発	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- c. 反撃への対応	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 否定を中断する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. 合理化と テーマ設定の確立	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ
- f.アリバイを拡散する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- g. 初回入院の確定	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ h. 口頭での告白	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 署名された声明を取得するためのベストプラクティスを説明する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 3: ~調査~ ドメイン 5: ~情報源~

	重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 不正調査・不正行為の調査における情報源を特定する	0	0	0	0	0
- 2. 公的記録の種類を特定する(例:地方自治体の記録、裁判所の記録、企 業の提出書類、証券記録)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 非公開記録の種類を特定する (例:信用報告書、銀行記録)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\circ
- 4. 非公開記録(携帯電話の記録、銀行口座、オンラインデータベースなど)にアクセスするための要件を特定する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ
~ 5. オープンソースインテリジェンスのガイドラインと使用方法を特定する (例: ソーシャルメディア、ディープウェブ、ダークウェブ、アーカイブ)	0	\circ	\circ	\circ	\circ
- 6. ソーシャルメディアの証拠収集に関するプライバシーの問題を認識する (例:公開アカウントと非公開アカウント)	0	\circ	\circ	\circ	\circ
~ 7. オンラインで取得した電子証拠の文書化手法とツールを特定する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc

ドメイン 6: デジタルフォレンジックと電子証拠開示。

	●重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 電子証拠の不安定性を認識する	0	0	0	0	0
- 2. デジタル証拠収集と訓練を受けた専門家の活用に関するベストブラクティスを特定する	0	\circ	\circ	\circ	\circ
~ 3. デジタル証拠のソースを特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\circ
~ a. 周辺機器	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- b. ポータブルおよびクラウドストレージデバイス	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. デジタル証拠調査の段階を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 発作のプロセス	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 画像取得フェーズ	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. 分析フェーズの実践	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 文書報告	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 3: ~調査~

ドメイン 7: -データ分析とレポートツール-

	重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
- 1. データ分析プロセスの段階を説明する	0	\circ	\circ	\circ	0
- 2. データ収集の課題を認識する(例:特注システム、複雑さ、データプライバシー法、管轄区域、レガシーシステム、保持ポリシー、非構造化データ)	0	0	0	0	0
~3. データ分析機能とその応用を認識する(例: ベンフォードの法則分析、 ソート、結合、非構造化データとテキスト分析、人工知能(AI)、予測モデ リング)	0	0	\circ	0	\circ
~ 4. データ分析の結果を解釈する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. データの視覚化の必要性とレポート作成におけるその役割を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. データ共有の課題を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

ドメイン 8: 違法取引の追跡。

	重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 合法的な取引と違法な取引を区別する	0	0	0	0	0
~ 2. 違法取引 (例:暗号通貨/仮想通貨、元帳) を追跡するプロセスを認識する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 銀行記録の入手と調査の手法について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 財務取引の追跡と分析の方法を特定する(例:資産法、支出法)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 資産没収と回収の手法を認識する(例:隠された資産の所在、資産隠匿の特徴)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. 特定の管轄区域で調査中の取引がある場合、その報告要件を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 3: 調査-ドメイン 9: 秘密作戦-

	重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 秘密作戦を定義する	0	0	0	0	0
~ 2. 秘密作戦を記録することの重要性を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 秘密作戦における法的問題を認識する(例:録音、おとり捜査)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 情報源や情報提供者を利用する際の手順と考慮事項を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 5. 情報源や情報提供者を利用する際の機密保持の限界を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. 秘密作戦に伴うリスクを認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 3: 調査- ドメイン 10: ~レポート作成-						
	-重要度 (17)					
		1 = あま り重要で はない	程度の	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要	
~ 1. 不正調査/調査報告書の目的と対象者を特定する	0	0	0	0	0	
- 2. 効果的なレポートの特徴と構造を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 3. 不正調査報告書のベストプラクティスを認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 4. 不正調査報告のフォローアッププロセスを認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
セクション III の知識、スキル、能力に関する記述は、調査の すか? ○ 0 = 非常に悪い	±3.00	<u>, щ</u> с с «У	13,2737			
○ 1 = 悪い						
○ 2=+分						
3 = まあ						
○ 4 = 非常に良い						
重要な知識、スキル、能力に関する記述のうち、カバーされ	ていない	ものはあ	りますか	\?		
			le			
0%	100%				→	

セクション 4: 不正防止と抑止 ドメイン 1: 不正検査士の倫理。

	重要度(1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. ACFE職業倫理規定を適用する	0	0	0	\circ	\circ
~ 2. 違法または非倫理的な行為を行うことの影響を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 潜在的な非倫理的状況に対処するための手法について説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 4. 潜在的な利益相反を特定し管理する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 5. ACFE職業倫理規定に含まれる誠実性の要件を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 6. 職業的懐疑心を維持することの重要性と手順を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 7. 意見を述べたり結論を導き出したりすることの限界を認識する(例:不正のない環境についての発言、有罪と無罪に関する意見)	0	\circ	\circ	\circ	\circ
- 8. 特権情報および機密情報(内部告発者から提供された情報、法的情報、個人を特定できる情報(PII)、保護された健康情報など)を保護、利用、保持するための手法を認識する	0	0	0	0	0
- 9. 必要なスキルを含む専門的な能力をもって仕事を遂行する義務を認識する	0	\circ	\circ	\circ	\circ

セクション 4: 詐欺防止と抑止-ドメイン 2: 金融犯罪-

	- 重要度 (1)					
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要	
~ 1. 金融犯罪の組織的機会を特定する	0	0	0	0	0	
- 2. 金融犯罪に寄与する要因を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 3. 金融犯罪が個人、組織、社会に及ぼす金銭的および非金銭的影響を認識する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	
- 4. 組織犯罪と職業犯罪(つまり、組織によって犯される犯罪と組織に対し て犯される犯罪)を区別する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	
- 5. 従業員の行動が組織が犯罪に遭いやすいかどうかに与える影響を認識する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	
- 6. 組織犯罪や職業犯罪を防ぐ方法を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
~ 7. 組織犯罪や職業犯罪を検知する方法を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	
- 8. 職業上の不正行為に関する研究と傾向を認識する(例:Report to the Nations Findings)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ	

セクション 4: 不正行為の防止と抑止-ドメイン 3: コーポレートガバナンス-

	重要度(1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. コーポレートガバナンスの枠組みを定義する	0	0	0	0	\circ
~ 2. コーポレートガバナンスの原則を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. コーポレートガバナンスに関わる役割と責任を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. 監査委員会に対する規制要件を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. コーポレートガバナンスガイダンスの情報源を認識する(例:経済協力 開発機構(OECD)、サステナビリティ会計基準審議会(SASB)、トレッ ドウェイ	0	0	\circ	0	\circ

セクション 4: 不正行為の防止と抑止 ドメイン 4: 不正行為に関する経営陣の責任

	~重要度 (1)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 不正防止プログラムに対する経営陣の責任を認識する(例:文化、不正に対する認識、ポリシーと手順、トレーニング)	0	0	0	0	0
~ 2. 内部統制を定義する(例:スポンサー組織委員会 (COSO))	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. COSOの内部統制の5つの要素と不正防止におけるその重要性を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション4: 不正防止と抑止。

ドメイン 5: 監査人の不正に関する責任

	重要度(「)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	程度の	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 内部監査人、外部監査人、政府監査人を区別する	0	0	0	0	0
~ 2. 財務諸表の重要性を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 内部統制の失敗の種類(ギャップ、設計、運用の有効性など)を説明する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc
~ 4. 内部監査の基準を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 詐欺に関する責任	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 報告要件	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 外部監査の基準を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 詐欺に関する責任	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 報告要件	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. 政府監査の基準を認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. 詐欺に関する責任	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 報告要件	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 4: -詐欺防止と抑止-ドメイン 6: -詐欺リスク管理-

	△重要度 ⑺				
	要では	1 = あま り重要で はない	程度の	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. リスク管理を定義する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\circ
- 2. リスク管理フレームワークを特定する(例:ISO 31000、COSOエンタ ープライズリスク管理統合フレームワーク)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 詐欺と詐欺リスクを区別する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 4. ACFE/COSO不正リスク管理フレームワークについて説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ a. プログラムのガバナンスと監督	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ b. 不正リスク管理の原則	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ c. 不正リスク管理プログラムの目的	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ d. 不正リスク管理の役割と責任	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 5. 外部不正リスクと内部不正リスクを区別する	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 6. 詐欺のトライアングルの構成要素を説明する	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- a. 機会(つまり、環境が 犯罪者に詐欺を犯す 状況を作り 出す程度)	0	\circ	\circ	\circ	0
~ b. 圧力(つまり、 犯罪者が詐欺を犯す可能性に影響を与える要因)	0	\circ	0	\circ	0
- c. 合理化(つまり、 犯罪者が不正 行為を正当化する方法)	0	\circ	\circ	\circ	\bigcirc
~ 7. 詐欺のトライアングルの構成要素を適用して詐欺リスクに対処する		\circ	\circ	\bigcirc	\bigcirc

セクション 4: 詐欺防止と抑止 ドメイン 7: 詐欺リスク評価

	·重要度 (T)				
	0 = 重 要では ない	1 = あま り重要で はない	2 = 中 程度の 重要性	3 = 重 要	4 = 非 常に 重要
~ 1. 不正リスク評価の目的を特定する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ
~ 2. 固有リスクと残余リスクを区別する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 3. 組織に不正リスク評価の必要性、価値、目的を説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 4. 不正リスク評価の成功に影響を与える要因を特定する(例:経営陣の同意)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 不正リスク評価を実施するための効果的な手法を決定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. 不正リスク評価の実施に必要な手順を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 7. 不正防止対策の目的と種類を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 8. 不正防止対策の有効性を評価するために必要な手順を特定する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 9. 不正リスク評価を主導し実施するチームを編成する際のベストプラクティスを認識する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\circ
~ 10. 残存リスクへの対応方法を説明する(リスク許容度に基づいて受け入 れ、軽減、共有、または移転する)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 11. 不正リスク評価結果の報告におけるベストプラクティスを説明する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 12. 不正リスク評価における役割/利害関係者の機能を認識する(例:内部 監査人/外部監査人)	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc

セクション 4: -詐欺防止と抑止-ドメイン 8: -詐欺防止プログラム-

	∞重要度 ⑴				
	要では	1 = あま り重要で はない	程度の		4 = 非 常に 重要
~ 1. 詐欺防止技術について説明する	0	0	0	0	0
~ a. 不正行為を抑止するための行動介入 (例: ナッジ)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ
~ b. データ分析 (継続的な 監査、継続的な監視など)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ
~ c. 不正行為 検出方法に関する従業員の認識	0	\circ	\circ	\circ	\circ
~ d. 詐欺に対する認識と教育	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ e. 内部統制(例:ホットライン、 監視)	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ
~ 2. 報告プログラムと内部告発者保護プログラムを認識する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
- 3. 企業全体の不正防止文化を強化する方法(トップの姿勢、組織構造、パフォーマンス管理と測定など)を説明する	0	\circ	\circ	\bigcirc	\circ
~ 4. 詐欺事件への対応結果を報告する	0	\circ	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 5. 正式な不正防止ポリシーのベストプラクティスを認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc
~ 6. 倫理プログラムのベストプラクティスを認識する	0	\bigcirc	\bigcirc	\bigcirc	\circ
セクション IV の知識、スキル、能力に関する記述は、詐欺防止と抑止の重要な側面をどの程度カバーしていますか?					
○ 0 = 非常に悪い					
○ 1 = 悪い					
○ 2 = +分					
○ 3 = まあ					
○ 4 = 非常に良い					
重要な知識、スキル、能力に関する記述のうち、カバーされて	いないも	のはありま	きすか?		
			14		
	1009/				

	セクション3: ドメインの重み付け	
ョンに割り当てると、合計パー	0セクションを以下に示します。試験内容の センテージが 100 になりますか? 整数のみな ーすべきでないと思われる場合は、指定され	を使用してください (例:
第1章 金融取引と詐欺行為		0 %
第2節 法律		0 %
第3節 調査		0 %
第4章 詐欺の防止と抑止		0 %
合計		0 %
←	0%	→
	セクション4: 追加コメント	
以下の毎月1十百十回祭形士で -	コント しもし カナスト は ホーナス し ギン・クスト	
以下の負荷は自由四名形式で、 ントは任意です。1	コメントを入力するためのテキスト ボックスカ	*含まれています。コメ
ントは任意です。1	Jメントを人刀 9 るためのテキスト バックスが を向上させるために、どのような追加の専門能	
ントは任意です。1 . 現在の職務でのパフォーマンス		
ントは任意です。1 . 現在の職務でのパフォーマンス利用できますか? 2. 今後5年間で仕事上の役割は		心力開発や継続教育を
ントは任意です。1 . 現在の職務でのパフォーマンス利用できますか? 2. 今後5年間で仕事上の役割は	を向上させるために、どのような追加の専門値	心力開発や継続教育を

※こちらのコメントは、英語でご記入ください。

セクション 5: 継続的専門教育クレジットとコンテスト

皆様のお時間は貴重なものであると認識しておりますので、この重要な調査にご参加いただき、ありがとうございます。この調査にご協力いただいたお礼として、調査全体を完了された回答者には、ACFE(NASBA以外)継続専門教育(CPE)クレジットが1クレジット付与され、今後開催されるACFEバーチャルイベントへの無料登録の抽選に参加できます。* CPEクレジットを付与し、抽選に参加するには、以下に要求される情報をご提供ください。** (CPEクレジットとコンテスト賞は、調査完了後の7月下旬/8月上旬に発行されます。)

注意: この情報の提供は必須ではありませんが、提供していただけない場合、CPEクレジットを付与したり、応募作品がコンテストに選ばれた場合に連絡したりすることはできません。

*1人あたり最大 1つの CPE クレジットと 1つのコンテスト エントリーに制限されます。クレジットを受け取るには、アンケートを完全に完了する必要があります。**お客様の個人情報は、CPE クレジットの適用と、コンテストで優勝した場合の連絡にのみ使用されます。お客様の個人情報は安全に保管され、アンケートの回答に関連付けられることはありません。

名	名、姓は、英字でご記入ください。
姓	
メンパーID#	メンバーID は、本部の ID になります。 アンケートを依頼した ACFE JAPAN
メールアドレス(ACFE会 員アカウントに記載されて いるもの)	からのメールに記載があります。